

第9回原子力改革監視委員会 議事概要

1. 日時:2015年8月24日(月)10:00~12:15

2. 場所:東京電力 本店 10階西側会議室

3. 出席者:

デール・クライン委員長、バーバラ・ジャッジ副委員長、櫻井正史委員、数土文夫委員(会長)、廣瀬直己原子力改革特別タスクフォース長(社長)、姉川尚史原子力改革特別タスクフォース長代理兼同事務局長(常務)、増田尚宏福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント(常務)、ジョン・クロフツ原子力安全監視室長(常務)、榎本知佐ソーシャル・コミュニケーション室長、鈴木一弘事務局長

4. 概要:

◆ 委員長開会挨拶

○ クライン委員長

福島第一原子力発電所(1F)においては、汚染水対策に進捗があった。汚染水の浄化・貯蔵については本日報告を受ける。

K排水路の情報公開問題では櫻井委員の報告書を高く評価する。

先日の事故で亡くなった方のご冥福をお祈りする。作業安全についても確認したい。

柏崎刈羽原子力発電所(KK)における防災訓練、国際原子力機関(IAEA)の視察についても報告してもらう。

委員会としては廃炉作業の進展を望んでいるが、安全を第一に今後も油断の無いようにお願いしたい。

◆ 各委員から一言

○ ジャッジ副委員長

クライン委員長と同様に、1Fの汚染水対策の進捗を高く評価する。

また、東京電力が作業員の労働環境改善に取り組んだことも評価する。

櫻井委員の報告書のとりまとめには敬意を表したい。また、東京電力のコミュニケーションの改善も高く評価するが、今後も情報公開の強化に取り組むことを期待する。

原子力安全文化の浸透は、1Fだけでなく、東京電力全体にとって重要なことである。

廃炉作業は順調に進んでいると思うが、油断の無いようにお願いしたい。

○ 櫻井委員

廃炉関係は未知の領域であり、安全を第一に取り組んでほしい。

K排水路の問題では、平成25年度の公表方針(25年度方針)が組織として

適切に実行されなかったこと、各担当レベルにまで社会目線の精神が十分浸透していなかったことが問題だと思っている。3/30 から東京電力が取り組んでいる全データ公開は、25 年度方針を発表した時にやるべきであった。現在、東京電力はよく取り組んでいるが、引き続き、お願いしたい。なお、情報公開分科会の活動は委員の了解が得られれば、本日の報告をもって終了としたい。

人身災害はヒヤリハット等、これまでの教訓を活かして、できる限り少なくする努力をお願いしたい。私としても経験があるので協力したい。

○ **数土委員**

汚染水対策は大きく進捗したが、予断を許さない状況である。

K 排水路の問題は、櫻井委員に報告書を作成していただいた。

日本原子力発電から村部常務に福島第一廃炉推進カンパニーのシニアバイスプレジデントに就任していただいた。日本原子力発電グループ社員にも 100 人規模で参画していただき、体制を強化し、廃炉作業を着実に進めていく。

KK では安全設備の工事とともに非常時訓練を繰り返し実施し、習熟度向上に努めている。

次の原子力改革監視委員会は、KK で開催することにした。

◆ **原子力改革特別タスクフォース長より挨拶**

○ **廣瀬原子力改革特別タスクフォース長**

委員から 1F の作業状況についてコメントをいただいた。リスクの低減に努めながら、現場の方々と着実に作業を進めている。

これからはサブドレンの運転開始を検討している。オペレーションは複雑だが、しっかり取り組んでいきたい。

1F の放射線データについては、先週からウェブ上で全データ公開を開始した。

原子力安全文化は浸透してきたが、まだ事故が起こっている。また、IAEA、世界原子力発電事業者協会(WANO)、原子力安全推進協会(JANSI)等の第三者からレビューを受けた。課題は山積しているが、しっかり取り組んでいきたい。

◆ **福島第一における廃炉・汚染水対策の進捗**

○ **クライン委員長**

汚染水対策を行う上で、現在の最大の課題は何か。

○ **増田福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント**

汚染水を漏らさないこと。また、放射性物質濃度を下げ、万が一、漏らした場合にも影響を小さくすることも継続する。トリチウム水の扱いについては、国で議論してもらっており、来年には決めていく必要がある。

○ **ジャッジ副委員長**

漁業関係者との合意状況はどうなっているのか。

○ **増田福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント**

サブドレンの必要性について主に相談しており、1年かけて理解を得た。いずれにしても信頼回復が重要であり、信頼関係を築いてから残った課題にご理解を得たいと考えている。

○ **クライン委員長**

一般人への教育プログラムはあるのか。

○ **増田福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント**

現状はないが、その必要性は認識している。立地地域と情報を共有する場を可能な限り早期に設置できるよう協議を開始している。

○ **櫻井委員**

情報公開分科会では1Fを2回視察した。全面マスク不要エリアの拡大は作業安全につながる。事故の原因分析については、全てを解明できないこともあろうが、まずは大まかなところを把握・分析し、少し離れた視点で見た方が良い場合がある。

○ **廣瀬原子力改革特別タスクフォース長**

死亡事故が起こったのは全面マスクが不要な低線量エリアであったが、全面マスクをしていた。適切な防護装備の装着を徹底していく必要があり、作業員の方々にもしっかり理解してもらうことが重要と考えている。

○ **数土委員**

東京電力と元請企業の契約上の責任所在も明らかにすべきであり、これにより更に東京電力の安全対応力を高めていくべき。

○ **増田福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント**

東京電力は、安全な環境を提供し、元請企業や協力企業にはこの中でルールに沿って安全に作業してもらうことを徹底したい。

◆ **福島第一排水路の情報公開問題を踏まえた取組状況**

○ **ジャッジ副委員長**

前回、リスクコミュニケーター(RC)のキャリアパスを提案したが、その取組状況はどうか？また、サイトに駐在するコミュニケーション部門の要員を配置するのか？

○ **榎本ソーシャル・コミュニケーション室長**

今年4月から統括RCを配置して、サイトの情報収集に努めている。

- **姉川原子力改革特別タスクフォース事務局長**
キャリアパスについては、ソーシャル・コミュニケーション室、RC、原子力安全監視室の経験者を重要な職務を行う部署に登用することを検討している。
- **クライン委員長**
一般の方々やマスコミと効果的にコミュニケーションが図れているかについて、どのようにベンチマークしているのか。
- **榎本ソーシャル・コミュニケーション室長**
社外のチャンネルで意見を聞いている。
- **廣瀬原子力改革特別タスクフォース長**
毎日2回福島で、また毎週東京とJヴィレッジで1回ずつ記者会見している。その中では細かな分析を踏まえた質問を受けている。全てに回答しきれていないかもしれないが、当社の変化は認識されていると考えている。
- **ジャッジ副委員長**
情報公開で難しいのは、情報を出し過ぎると、かえって見る方が嫌になり、何も公表していないのと同じになってしまう。分かりやすく説明することが重要である。対外コミュニケーションのベンチマークとしては、誤解に基づく報道が減ることが一つの指標になると思う。
- **数土委員**
情報公開の取組状況については、情報の発信者と受信者で定量化された評価が必要である。長続きし、慢心しない定量的な評価方法を検討してほしい。
- **増田福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント**
難しいかもしれないが、定量的に評価する方法を検討したい。

◆ 原子力安全改革プランの進捗

- **クライン委員長**
IAEAの運転安全調査団(OSART)とJANSIの指導では、どちらの方が勉強になるか？
- **姉川原子力改革特別タスクフォース事務局長**
どちらも有用であり、比較するよりも一つ一つの推奨内容を真摯に検討している。
- **クライン委員長**
米国で原子力発電運転協会(INPO)のレビューを見学したことはあるか？
- **姉川原子力改革特別タスクフォース事務局長**
見学したことはないがJANSIの調査にもINPOのメンバーが参加しており、

その視点でも評価されていると考えている。

○ **クライン委員長**

どこかの時点で、廣瀬社長か姉川原子力改革特別タスクフォース事務局長が INPO のレビューを見学してはどうか。JANSI のプロセスとの違いを理解するのも良いと思う。

○ **ジャッジ副委員長**

各サイトの監視において原子力安全監視室のリソースが不足していることはないか。また、建て付けが執行側が変わったが、どのような状況か。

○ **クロフツ安全監視室長**

サイトには原子力安全監視室の指摘を真摯に受け止めてもらっている。メンバーがもう少しあればありがたいが、どの部門も同じであり、難しい問題である。

新しい立場では、まだ手探り状態であり、アドバイスをお願いしたい。

○ **数土委員**

IAEA や JANSI の評価は 1 回限りなのか。リトライできるのか。

○ **姉川原子力改革特別タスクフォース事務局長**

フォローアップの仕組みがある。IAEA も JANSI も指摘事項の進捗状況を確認し、約 1 年後に再評価している。レビューについてはこれまでは 4 年に 1 回程度であったが、頻度を増やしている。

◆ **各委員からのコメント及び議事とりまとめ**

○ **クライン委員長**

原子力安全改革に進捗があり、危機的状況が無いことは良いが、課題もある。廃炉作業は今後、よりリスクの高い領域に入っていくため、高いレベルの対応が求められる。作業安全、原子力安全を引き続き、お願いしたい。

○ **ジャッジ副委員長**

作業員の労働環境を改善する取り組みに感謝する。

○ **櫻井委員**

前回の指摘事項に十分対応していることを感謝する。ただし、人身事故が起こったことは残念である。日頃の訓練で得られたことを日常業務に生かしてほしい。

○ **数土委員**

責任と実践が重要。特に実践を定量化し、確認していくことが重要である。次回委員会は、他の委員とも相談し、KK で開催することで一致した。引き続き、取り組みを進めていく。

◆ 原子力改革特別タスクフォースとしての受け止め

○ 廣瀬原子力改革特別タスクフォース長

1Fにはまだまだリスクが残っている。安全第一で作業を進めていきたい。次回委員会のKK開催に向けて、しっかり取り組んでいく。

◆ その他(次回の予定など)

○ 鈴木事務局長

今回、委員からいただいたご指摘は、リスト化して整理する。

次回委員会では11月にKKの安全対策、防災訓練を視察してもらう。委員会の開催場所は関係者と相談して決定し、連絡したい。

以上